資源循環システムコース 講義評価アンケート瓦版

第八号
二〇一三年八月号
発行元　教育システム改善委員会

二〇一三年の北工会運動会は惜しくも優勝できませんでしたが、皆さん元気に講義を受けていますか？資源循環システムコース・教育システム改善委員会は四月からメンバーが入れ替わり、新委員長として佐藤先生、委員に福嶋先生、太田先生の体制になりました。

本委員会はコースのカリキュラムや講義の内容を継続的にチェックし、問題を改善することが目的で設置され、今年で十一年目を迎えます。皆さんに定期的にお願いしているアンケートの分析や、改善案の提案などが主な活動内容となっています。

佐藤新委員長

福嶋委員

太田新委員

太田の小言

資源は地球古来より長年かけて生成された【地球からの賜り物】と向き合い、自然の中から豊かな発想を得ることができる分野です。これから皆さんは、さまざまなフィールドで自然と向き合う機会に恵まれ、生物多様性を体感することでしょう。人間が単一に管理する農作物は肥料をやり農薬をまき効率良く収穫できるシステムが構築されていますが、一度病気にかかると全滅してしまうケースがあります。それに対して、雑草はどうでしょう？【なぜ、人間が単一に管理する植物より雑草が強いのか？】踏まれても、踏まれても強く生き延びられるから・・・だけではありません。雑草は、ある環境である病気がはやっても、全滅することはありません。単一の種ではなく多様性に富むからです。これは人間社会でも同様です。

生物多様性の時代に皆同じ能力・体質・考えでは、一度困難に直面すると、生き残る確率がぐっと下がってしまいます。君たちは自然から多くを学ぶと同時に、多様な考えの友人・先輩・後進とふれあい、多角的な視野を身につけてください。将来君たちが道なき道を歩むとき、多角的な視野を持ち、常に柔軟な考えを備えることができれば、解決すらなかった道が逆転の発想で大きなブレークスルーを得られるかもしれません。自然とことん向き合い・学び、回答のない答えを自ら発掘できる柔軟な姿勢を身につけ、明日への一歩を歩んでください。明日も君に笑顔を。

新委員長から一言

この4月から委員長になりました佐藤努です。資源の学生さんたちが「資源循環システムコースに入ってよかったなあ」と言って卒業していただけるよう、在任期間中に限らず教育改善に邁進してまいりたいと存じます。

さて、今年の3年生が2年生で分属された時から、カリキュラムがずいぶん変わりました。例えば、2年前期に履修する「資源循環デザイン」、各実験科目をわかりやすく内容毎にまとめた「資源循環システム実験ⅠⅡⅢ」、3年後期の「技術英語」、資源経済学に関する集中講義等は今回の改訂での目玉となる講義です。これらは、学生さんからの要望や教員の入れ替わりによる内容のすり合わせのために実施された改訂によるものです。この改訂のように、資源循環システムコースのカリキュラムは常に改善のまな板に載り、日本の大学で4つしかない資源系の学科としての自負を持って、日々進化する資源・エネルギー・環境問題の解決に必要な基礎知識や技術を学生さん達が習得できるようになっております。既知のことかもかもしれませんが、資源循環システムコースの講義は広い分野をカバーする必要があるため、ややもするとそれぞれが浅くなっているのかもしれません。それをカバーするため、卒業研究では研究室に配属し、関連分野をより深く追求してもらうように心がけております。しかし、学生さん達は、研究室分属後はその道の専門家に成ったかの如く錯覚し、突如として他分野や他研究室の研究には関心を持たなくなっているように感じています。これでは上述のようなコースの教育ポリシーとかけ離れたものになってしまいます。数多くの難題を解決するには沢山の引出が必要です。どうぞ色々なことに興味を持って、総合的に判断する見方や考え方を身につけることを忘れないでください。そうであれば、スタッフの考えた教育システムが十分機能することに繋がるし、何よりも学生さん達の将来のためになると思います。

コースへの意見・要望

H24年度のアンケートで寄せられたコースへの要望や質問についてお答えします。より詳しいアンケートの結果は，結果の分析とともにコースHPに掲載しています。

Q. 一部の講義において講義資料を事前に入手できるようにしてほしいとの要望がありました。
A. 資料の事前入手は，特に教科書を指定していない講義では予習する上で重要と思われます。アンケートに基づいて，委員会からも改善が必要と思われる教員には書簡にて改善をお願いしております。

Q. 現在のカリキュラムにはないが，あればよいと思う科目や学習内容について，「英語に関する講義」や「プレゼン能力・コミュニケーション能力の向上に関する講義」などが挙げられました。
A. 現3年生からの新カリキュラムでは「技術英語」「資源循環システムI,II」「資源循環デザイン」がコース専門科目として加わり，特に，「資源循環デザイン」の中ではグループワークやプレゼンテーションなども経験できるようになりました。

Q. 選択科目を増やして欲しい。選択科目を3年生の内に全て取り終えたいとの要望がありました。
A. 現在の4年生，H24年度卒業生の旧カリキュラムでは，3年次終了まで全ての選択科目の単位を修得しても27単位で，4年生での単位修得が必須になります。現在の3年生以下の新カリキュラムでは，3年生までの選択科目を全て修得できれば，学部・学科共通8単位以上という条件もクリアして選択科目28単位(卒業案件の最低ライン)を取りきることができます。先に挙げられた要望，プレゼンテーション能力，デザイン力，技術英語力は講義だけで養えるものではありません。4年次に卒論に専念することはそういった意味でも重要ですので，3年生の内に選択科目の単位を全て習得することをお奨めします。しかし，現カリキュラムでもギリギリ28単位と余裕がないことは確かです。これに関しては，選択科目の増加や時間割変更など今後検討すべき課題と考えております。

Q. アンケートが回答しにくい，Webやメールで回答しては如何かとの意見が数件寄せられました。
A. 今年度から学部に於ける講義アンケートがWeb形式に変わりました。これまでもこのような要望はありましたが，回答率の低下などが懸念されてきました。学部が行うWeb形式のアンケートの動向を見て今後検討していきたいと考えております。

資源循環システムコースでは下記の行事を予定しています。皆さん，積極的に先輩や後輩とコミュニケーションをとって大学生活をエンジョイしてください。

行事予定
4月　新2年生歓迎会　　**6月**　大学祭，北工会運動会
7月　資源杯大ソフトボール大会　　**8月**　オープンキャンパス，大学院入試
10月　見学会(2年生)，インターンシップ報告会　　**11月**　卒業論文中間発表会
12月　研究室仮配属(3年生)，工学部卓球大会　　**1月**　工学部雪上綱引き大会
2月　卒論発表会，追い出しコンパ　　3月　卒業式

新任の先生からの挨拶

福田大祐（ふくだいすけ）と申します．2012年9月に資源の金子先生のもとで博士後期課程を修了し，10月から岩力の助教として赴任しました．A654（学生部屋）の左側のドアから入ったところにいます．留学生ばかりなので英語話したい学生さんとか気軽に訪ねてみてください．ちなみに，学部時代からずっと北大です．出身は愛知県は名古屋市・豊明市ですが，もうあんな暑いところ（冬も意外と寒いところがさらに傷）には二度と戻りたくありません．

専門は岩石力学（破壊力学）です．これまでは主に数値シミュレーション（発破などの超高速な破壊現象の数値シミュレーションしてみたり・・）とかX線CT（画像処理してみたり・・・）を使って岩石の変形・破壊現象を観察・評価するといった研究に取り組んで来ています．最近は，これらの加えて，長大岩盤斜面の変形分析や頁岩層からのガス回収の数値シミュレーター開発，さらにはトンネルの変形解析にも手を出しています．これまでは，理論解析よりだったのですが，岩力では“力学実験“が行えますので学生さんと一緒にお勉強させてもらっています．最近は化学が好きな学生さんが多くなってきているようにも思うのですが，数学やら物理を駆使して取り組む分野も魅力的ですよ～とつぶやいておきます．興味があるかたは気軽にご訪問ください！

～その他自己紹介～

好きなこと：
・HeavyMetalな音楽を弾く（主にギターの速弾き）・歌う（主にハイピッチノイズ），聴く（主にFinlandやらSweden産のバンド），ライブに参加．　知識が大学4年あたりで止まっているので，最近のものには疎いです．隠れメタル好きさん，隠れてないで出てきてかまってください．
・Situation Comedy (Friends, Frasier, Cheers, The Big bang theory)鑑賞して笑うこと（英語のスキルアップにもお勧め？！），シュールなTシャツ集め，もう乗っていませんがKAWASAKIのバイク

嫌いだがそれなりに得意なこと：　水泳（小学6年の時平泳ぎ50m32秒台，中3の時バラフライ100m57台でした）．最近はおデブ度がアップしてきたときに取り組む程度です．

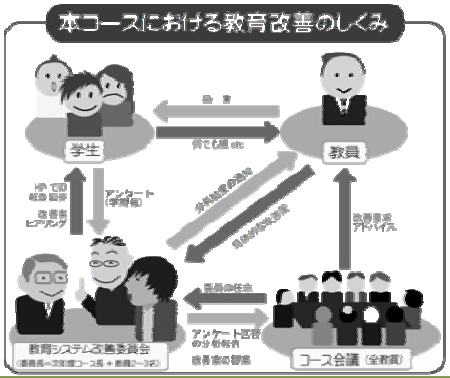
苦手なこと：球技全般，ランニング

以上，こないだ三十路に乗ったばかりの若造・未熟者ですが皆様よろしくお願いします．

TEACHER OF THE YEAR 2012

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は，Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。2012年度のTeacher of the Yearは，　**「流体工学演習」原田先生**

担当教員のコメント

流体工学という小難しい講義を評価してくれてありがとうございます．責任を果たせてほっとしています．その年の講義がうまくいくかどうかには，受講する学生と共に作り出す空気感が最も重要であると思っています．今回は皆さんと相性がばっちりだったということでしょう！

この科目に寄せられたコメント
・おもしろかったのであきずに聞けた。
・板書が分かりやすかった。
・世界が広がった　・・・etc.